



<苗床へ「さよむらさき（通称古代米）」のもみまき>



## Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

|                   |   |              |    |
|-------------------|---|--------------|----|
| ならやまプロジェクト        | 1 | 私の里山         | 8  |
| Monthly Repo ならやま | 2 | 字遊字感（日本語の流儀） | 9  |
| 里山の今（パト・果樹）       | 3 | 仲間入りしました     | 10 |
| 2022年度総会・レポ       | 4 | Galleryならやま  | 11 |
| 平城宮跡草刈り・レポ        | 5 | 行事案内         | 12 |
| 自然観察会・レポ          | 6 | 幹事会報告・編集後記   | 13 |
| 草刈安全講習会・レポ        | 7 |              |    |

## ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
あなたも私も・力合わせて

5月の総会を経て、新しい組織体制のもとで、21年目がスタートした。社会はウィズコロナが定着し、マスク着用ルールの見直しも議論されだした。ならやまの活動においても、熱中症の危険が高まりつつあることもあり、野外活動で適度な距離を保てる時には原則としてマスク着用はしないことになった。このまま少しずつ収束にむかってくれることを願う。

5月のイベントはコロナ禍の見通しが難しい中で参加者を少人数に絞らざるを得なかったが、7月、8月のイベントには多くの子どもたちを迎えられることを楽しみにしている。

季節は移り、タケノコも孟宗竹から真竹に変わった。いよいよ農繁期。小夜紫(古代米)の苗作りが進められ、14年続く佐保台小5年生を迎えての田植え体験学習の準備が進む。畑ではピーマンやナスなどの植え付けの一方、ジャガイモの収穫期を迎えて春の感謝祭が楽しみである。BC周辺でも桑の実が熟し、南高梅も収穫期を迎える。雑草の成長も顕著で、草刈り隊も忙しくなる。私たちも自然の一部でありそこで活動する楽しさを益々感じる反面、熱中症をはじめ、体調管理に心掛けなければならないと思う。

### 6月の活動特記事項

協働活動：6月2日 シイタケ榎木天地替え、第2駐車場草刈り整備、アダプトプログラム

佐保台小学校田植え体験学習：6月9日

春の感謝祭：6月30日

### 6月の各グループ活動予定

| グループ   | 活動予定                                                                                                        |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 里山     | シイタケ榎木本伏せ天地返し、里山林内整備、薪割り、下草刈り<br>ユート：アカマツの森の植菌後の整備                                                          |
| エコファーム | 田植え、ジャガイモ収穫(春の感謝祭)<br>里芋、さつま芋の除草、ピーマン、ナス、唐辛子などの植え付け<br>鹿対策ネットの設置                                            |
| 景観     | 整備：第2・第3駐車場、彩の森・BC周辺、佐保自然の森の草刈り<br>養蜂巣箱の整備<br>ビオ：西池改修、水路・木道整備、水生生物調査<br>花：紫陽花・モミジアオイ・ヤマボウシ周辺草取り、マリーゴールド・綿移植 |
| パトロール  | 1～3コースパトロール、観察路整備(階段、ロープ他)、保護植物周辺整備、笹草刈り                                                                    |
| 果樹     | 実りの森除草、灌木整理(チップパー作業)、ウメの収穫                                                                                  |

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止





## Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

4月21日(木)曇り後雨 75名 近大生4名

図録「見つけよう自然のなかま～ならやまの木々たち～」が完成したとの報告があった。有志が作った武者人形が勢ぞろいし集合写真を撮る。エコGはジャガイモ畑の除草、堆肥作り、ラッカセイなどの種まき。ユートピアクラブは新入会員と共に真砂土を袋詰めして運び、赤松の森で植菌を行った。景観GはBC周辺の草刈り、佐保自然の森の筍掘り。花班は山野草園、



アガパンサスの草取りなど。ビオ班は近大生と

タナゴ池・ドジョウ池の生物、環境調査などを行う。パトGは3コースパトロール、エントランス広場草刈りなど。果樹Gは新入会員と共に実りの森の除草と研修を行う。鹿害が出ている。昼頃から雨が降り始め、活動は午前中で終了。

4月28日(木)晴れ 75名

新入会員向けオリエンテーションはエコG、景観Gが担当。筍掘りを行う。5月21日のイベントについての説明があった。エコGはカボチャの植付け、「さよむらさき」のモミまき、ジャガイモの芽掻きなど。景観GはBC周辺の草刈り、佐保自然の森の筍掘りなど。花班は道路沿い花壇の草取り。ジャコウアゲハがたくさん見られる。ビオ班はビオエリアの草刈り、ザニガニ駆除と新入会員の研修。パトGは2コースパトロール、保護植物周辺整備、四季の丘草刈りなど。果樹Gは、実りの森除草、梅の消毒など。

5月5日(木) 晴 70名

里山Gは里山林内整備、楢木本伏せの準備な

ど。エコGはナスの定植、畑周辺の草刈り、レタスの収穫など。景観Gは応援者含め15名で平城宮跡の草刈り。花班は道路沿い花壇の草取り、ひまわりの移植など。パトGは2コースパトロール、銘板取付け、イベント準備など。果



樹Gはこんにゃくとミョウガの植付け、新入会員の研修など。道路

沿いの花が綺麗に咲いた。

5月12日(木)雨 33名

前日の天気予報が降水確率50%の為、活動日としたが、朝から雨が降り、活動はほとんどできなかった。14日の総会の打ち合わせ、16日の自然観察会の案内、21日のG.Gイベントの案内など。エコGはナスのネット掛け、レタスなどの販売。花班はマリーゴールドの移植など。里山G、景観G、ビオ班、果樹Gは雨の為、活動中止となった。

5月19日(木)晴れ 72名+近大生4名

図録「ならやまの木々たち」について読売新聞に掲載されたことが報告された。また、桜の害虫クビアカツヤカミキリについて注意喚起があった。21日のイベントの案内、6月の例会の案内などがあった。JAから指導者を招いての草刈機などの安全講習に30名が参加。里山Gは枯死木の整備、薪割りなど。エコGは水田の整備、カボチャの剪定、ピーマンなどの植付け。景観Gは草刈機の安全講習支援、彩の森整備など。花班はクリスマスローズの移植など。ビオ班は西池水生生物調査、近大生とタナゴ池等の定期調査。タガイが良く育っている事を確認。パトGは3コースパトロール、イベント準備など。果樹Gは次回使用に向けてのチップー講習など。ユートクラブは、下草刈りなど。

パトロール G

◆パトロールグループの一日

山上 伸子

朝礼と体操、ミーティングを終えて、さあパトロール G の一日の始まりです。毎回、3 コースある観察路の内1つを、当番を決めて巡回していますが、今日はそのほかに階段整備と保護植物の状況確認とその周辺の草刈り、樹木銘板の取り付けをおこないます。

段ボール箱を利用した手作り感満載の背負い籠に樹木銘版をいれ、腰には剪定鋏、鋸、手には鎌・・・メットを被っていざ山へ。

山の中は1週間でどんどん変わります。サワフタギは満開で、ガの幼虫(シロシタホタルガ?)が葉っぱの布団に包まって何やら一心不乱に作業中です。幹に食い込みそうな紐は取り替えたり結びなおしたりしてメンテ、銘板を取り付け



てもらった木々は何だか誇らしげです。柵で囲った保護植物は元気かな? あまり明るくし過ぎないように塩梅よく下草を刈ります。グループメンバーの造詣は深く、毎回新しい発見と学

びがあります。今日はキノコ博士からアミスギタケなるキノコを教えてもらいました。傘の裏側の網目模様が美しい・・・それにしても森はなんと豊かなのでしょう。

植物は動かないことを敢えて選択した生き物です。そのために身につけた知恵は計り知れないな～と、いつも感じつつ、里山の空気を胸いっぱい吸って元気になってベースキャンプに戻ります。

私事ですが・・・パーツを作っていただき至れり尽くせりの指導を受け、世界に一つの武者人形を作りました。感謝!! 現在、玄関に鎮座、客人を迎えています。



果樹 G

◆鹿との攻防・ほぼ負け戦

尾崎 信次

果樹グループに入って最初の仕事が、実りの森を囲む柵作りだったように記憶しています。先を尖らせた竹を杭にして打ち込み漁網をネット代わりに張りめぐらす。網が絡まって、解こうとしてもうまくいかず、一部を切って解いたりしたこともありました。

そんなに苦勞して設定した柵が、翌週にはあっさりと倒されて、入り込んだ後なんてことになっていました。そこは元から鹿の通り道だったのかもしれませんが。

それに対して、外にもう一段柵を追加したり、有刺鉄線を張り巡らしたりしました。敵もさる者、二重柵と逆の方から有刺鉄線の隙間を縫って入ったり、なかなか止められません。



彼らにとっては若葉がごちそうなようで、植樹して葉が出てきた所を食われて、まだ弱い木本体を枯らしてしまったこともありました。

この冬は1本ずつ嚴重に有刺鉄線を巻いた木もその隙間から若葉を食われていました。彼らにとっては有刺鉄線もちょっとした棘植物と変わらないのかもしれませんが。

竹や木を組んだ柵は1年も過ぎると朽ちてきて、隙間だらけになり、今はかなり自由に入っているようです。もっと丈夫なフェンスに期待するしか無さそうです。



## 2022年度 第21回通常総会・レポ

青木 幸子

2022年度第21回通常総会は、5月14日(土)14時より奈良市中部公民館4階の第3・4講座室にて、ソーシャルディスタンスを保ちつつ開催されました。

出席者29名と委任状提出者99名合わせて128名で、会員総数154名の過半数に達し、総会は成立しました。

千載会長が、「コロナ禍に翻弄された年でしたが、何とかウィズコロナが定着し、会員の皆さま方が「うつらない、うつさない」を基本に適切な判断をしてご参加いただいたおかげで、会長就任1年間を大過なく何とか役割を果たすことができ感謝しています。そして「明るく 楽しく 無理をせず」の原点を忘れず、お互いに力を合わせて活動の推進に努めてまいりたいと思いますので宜しくお願いします」と挨拶。

続いて、司会者より議長選任について諮られ、塩本勝也さんを議長に選任。第1号議案の審議が開始されました。



まず、千載会長から「コロナ禍により活動自粛を余儀なくされた期間もありましたが、それぞれの活動はもとより、アンケートによる会員の



の思いの共有、記念誌と樹木編図録の発行をはじめ、モニュメントを含む里山林エントランスの整備、猿沢池漁礁作りなど、いくつか

の20周年の取り組みも実施することができ、多くの活動成果を上げることができました。また緑綬褒章受章は新たな歩みに向けての大きな励みとなりました」と1年間の活動総括報告がありました。

続いて、ならやま委員長、各グループリーダーからならやまプロジェクトがコロナ禍中にありながら何とか後退することなく維持できたこと、また、イベントや月例研修、自然教室も中止せざるを得ないこともあったが、可能な限り実施したことについて報告がありました。会計報告では、健全な財政状態を維持できていることが報告さ



れ、監査役による適正に処理されているとの報告があり、第1号議案は、満場一致で承認されました。

次に、第2号議案・役員改選について、千載会長から昨年末からの会員による推薦に始まり、役員候補提案に至った経緯などについて説明があり、議場に諮られた結果、満場一致で承認されました。

この後、総会はいったん休憩となり、その間、新役員による臨時幹事会が開催されました。

総会が再開され、千載幹事から、臨時幹事会において、役職者(会長:千載輝重、副会長:太田和則、小島武雄、辻本信一、富井忠雄、平田範光、会計:尾崎信次、監査役:岡田安弘)



選任、および顧問・参与(阿部和生、古川祐司)退任について報告がありました。

続いて、第3号議案の審議に移りました。先ず千載会長から、事業活動方針について、「2022年度は、新たな10年20年への第一歩の年ですが、会員の高齢化や活動資金の減少などが避けられない状況です。これまでの成果を踏まえ、どのようにこれを活かし守っていくかが最大の課題で、『仲間への尊敬と感謝』を大切にお互いに力を合わせて少しずつでも前進していきたい。基本的な活動方針は従来通り、①会員の交流、地域との協働活動を基本とし、②里山保全、生物多様性維持復活とその一環としての自然環境教育を進め、③自然を愛し、次世代に引き継ぐ」ということを念頭においた活動を推進します」との説明がありました。

この後、ならやまプロジェクト、月例研修、自然教室、イベントなどの諸活動計画について説明があり、また、予算については年間収支は支出過多となっており、前年度繰越金によって補うが、先行き収支はかなり厳しくなるので今後とも経費節減に努力をお願いしたいとの説明があり、第3議案も満場一致で承認され、第21回通常総会は無事終了しました。

今年も懇親会は開催できませんでした。お互いに胸襟を開いて情報交換を行う場が持てなかったのですが、一日も早く、コロナが収束し日常の生活スタイルが取り戻せることを願っています。

## 平城宮の雑草と遊ぶ

太田 和則

平城宮跡東側、東院庭園の南に位置した空間がある。田圃である。昨年、奈良県から3区画3500㎡の草刈り整備の依頼を受け、コロナ禍の中で草刈りを行った。雨のため3回の日程変更の後実施したが、水浸しの田圃であることから、水しぶきを飛ばしながら刈払機を振り回し悪戦苦闘だった記憶が蘇った。

今年も5月5日子供の日、前週の予定が雨で延びて、この日になった。1区画増えて5000㎡である。この日の天候は快晴、気温は25度前後で暑さに慣れきっていない体には少々堪える温度だ。事前調査を怠った手前、田んぼの状態がつかめていない。



(草刈り前田圃、右上は東院庭園の赤壁)

“田圃に水がない” “ラッキーだ”

草刈りの区画が増えたことを受けて、草刈り名人が駆けつけてくれた。総勢15名。



自走式草刈機スパイダーモア2台、刈払機9台、その他、鍬5本、レイキ、防具、燃料など軽ト

ラに満載しベースキャンプを8:10に出発。予定より30分も早く現場に着いた。意気込みを感じる。まずは現場の事前写真撮影と15名の集合写真を撮った。



(軽トラから道具を下ろし点検)

草刈りの区画が拡大したこともあり、この日1日で終わるかな? と心配しつつ、刈払機とスパイダーモアのエンジン音が一斉に鳴り出した。順調だ! 作業はドンドン進んでいく。なんと昼前にはある程度の目処がたった。一安心。昨年苦戦したことが今年はプラスに働いたようだ。



(作業風景)

昨年のタイトルは「1300年の歴史を刈り取る」だったが、今年は控えめに「平城宮跡の雑草と遊ぶ」としたが? 仕上げに水路掃除を済ませ、作業後の提出写真を撮って完了。軽トラに器具を積み込み2時前にベースキャンプに到着。器具の掃除をした後、倉庫に収納し作業完了。今年はゴールデンウィーク中にもかかわらず、駆けつけていただいた名人達、本当にお疲れ様でした。

“来年もあるかも” その時は宜しくお願い致します。



## 5月自然教室だより

### 新緑の生駒滝寺周辺自然観察会報告

辻本 信一

観察会当日の5月16日(月)は、朝から多少の曇り空ながら風もなく、絶好の観察日和となりました。本日の講師は田代貢先生。集合場所の近鉄生駒駅中央改札口には新しく入会された会員の方や田代先生の熱心なファンの方、総勢19名が集いました。



【近鉄生駒駅にて朝の集合】

田代先生ご案内による生駒滝寺周辺の自然観察会としては2018年10月の秋以来の観察会となりましたが、例により準備は万端。ご用意いただいたB4の配布資料には観察ルートマップにそれぞれの観察ポイントの植物名と説明の図解がビッシリ。皆さまも同じだと思いますが、我が家では、これまでの資料全てを貴重なお宝として大切に保管しています。



【川べりでの説明】



【階段上からの説明】

田代先生のご説明は、当日の植物に直に触れ、ルーペ、カッター、ライターなどの小道具も使用し植物の秘密に迫りますが、それぞれのテーマに合わせ事前にご用意いただいた図解をふんだんに使用して説明されるのが特徴です。更に必要なものについてはその場でフリーハンドの絵を披露いただいてのご説明も毎度のこと。

それぞれの観察ポイントでは、川辺にいたり、階段の上からの説明となったり、参加者に対する立ち位置も工夫されていることが自ずと伝わってきます。それゆえ参加者の皆さんも熱

心にノートを取り、終始真剣な眼差しで話に集中してくださいます。



【ツクシとスギナ】



【ヤブガラシの仮軸分枝】

コロナ対策として年年内は午前中の観察会が続きますが、限られた時間内でひとつでも多くの先生の熱意は、「目につくものは何でも手当たり次第」の勢いで説明が次々と繰り出されます。それはまた参加者の皆さまの好奇心が満たされる瞬間でもあり、参加者の満足げな表情に現れます。本日も田代先生のご案内の対象は植物のみに留まらず、カタツムリ、アリジゴクや果ては生駒ケーブルの構造にまで及び、終わって見れば40以上の対象物の説明を受けました。



【ケーブル軌道の説明】



【アリジゴクを探し】

何れにしても、これだけ数多くのまた中身の濃いお話をA4サイズ1頁の紙面で満足のいくように紹介するのは所詮無理と感じ、今回は当日の観察会の様子に的を絞り紹介させて頂きました。代わりに貴重な観察会の資料は直近のならやまでの活動日に希望者にお配りすることにいたします。



【集合写真滝寺境内にて】

今回の記事で田代先生ご案内の自然観察会に興味を持たれた方、次回6月27日(月)の白毫寺周辺での自然観察会に是非ご参加ください。奮ってのご参加お待ちしております。



## 草刈機安全講習会

小島 武雄

2022年5月19日(晴)9時30分より11時までJAの指導の下、彩の森にて草刈機の安全講習会が行われ、30名が参加しました。

朝の彩の森は木漏れ日の中、初夏の溢れる緑に包まれていました。景観Gの協力で講習に使う草刈機は、鋸歯付草刈機、コード付き草刈機、女性向き軽量仕様の草刈機、小型自走式草刈機(スパイダーモア)、自走式草刈機(モア)を合わせて10数台を準備することができました。

JAから2名の講師に来所していただき、草刈機安全講習の始まりです。昨年の草刈機安全講習会で、もう少し経験したかったとの声があり、やっと一年ぶりに講習会を実施することができました。



(JA講師による安全注意)

慣れない手つきで防護服、防護ゴーグルを被り、安全ベルトを調節して装備万全。最初に、草刈機のエンジン始動の方法を教わります。普段見慣れている事でも実際に触ると手が動きません。丁寧に指導をしていただき、草刈り作業開始です。

初めて草刈機を使う女性もすぐに慣れて、ちょうど良い高さの草を軽快に刈っていきます。次に新登場の小型自走式草刈機(スパイダーモア)に挑戦です。見かけより操作が重くて難しい様でした。

最後に自走式草刈機(モア)、重量は約65kg

もあります。スイッチ、レバーが多く、難しそうです。これは自分で操作するより、機械に引っ張られているようで慣れが必要な為、ちょっとハードルが高い様に思いました。しかし、今ではこの機械が景観Gの省力化と体力的な面で最大の戦力になっています。



(自走式草刈機(モア)を操作する女性)



(景観グループによる自走式草刈機(モア)実演)

あっという間の講習でしたが、草刈り手順と安全の再確認ができました。講習会に参加した皆さまは、十分にこれからの草刈り戦力になられた様に感じられました。しかし、講師から、草刈機の操作ミスによる鋸歯キックバックで、自分より周りの人に危害が及ぶ事を教わりました。草刈機は刃物の付いている機械です、作業の慣れが危険につながります。気を引き締めて、安全作業に当たらなければなりません。

講習後「結構疲れたよ」とベンチで休んでいる方も、良い経験ができたとの事。これからもこの様な、安全講習を継続的に開催していきたいと思います。景観Gの皆さま、ありがとうございました。



## 私の里山

清原 正彦

倶留尊(くろそ)山、三郎ヶ岳、額井岳、竜門岳・・・宇陀から三重県・曽爾高原に広がる山々に何度もよく登りました。

友人と、妻と、そして単独行でも。

一番好きだったのは単独行です。誰とも言葉を交わすこともなく、何かを考えている訳でもなく、さりとて何も考えていない訳でもなく、淡々と歩を進めると、自然と一体化した自分を体感するのです。神経が研ぎ澄まされ、風にも香りを感じ、せせらぎの水の音、ほんのちょっとした草木のたたずまいにも心が動かされます。

そんな中、どこの山だったのか記憶は定かではありませんが、背中にゾクッと寒気を覚える光景に出合ったことがあります。

薄暗く、下草も生えず、ほこりまみれで、陰鬱としたまるで死が支配するような光景。植林はされたものの一度として間伐も、枝打ちもされずに放置されて広がる杉・桧の林です。

「ああ、ここに手を入れて、木々を、山々を生き返らせたかった」そう強く思ったのは20歳代、今から50年ほど前のことです。



その後、都会のけん騒の中仕事や子育てに追われる日々が続き、25年前に妻の両親の世話のために九州の田舎に転居して、やっと時間に余裕のある生活を取り戻し、50年前に心にずっと思っていたことに向き合える時を得ました。

インターネットで森林ボランティアができる団体を探し、色々な所でチェーンソーや刈払い機の教を乞い、研修を重ね、少しでも安全で上手に伐倒ができるよう勉強してきました。

おかげさまで、チェーンソーの扱い方の基礎くらいはお伝えできるようになり、講習会も主催させて頂くようになりました。

林業に専念しているわけでもないのに、50年前の「山々を生き返らせたかった」という思いが今どれだけ実現しているのか自信はありません。

それで

も微力ではあっても体が動く限り山と関わっていきたいと思っています。



樹高30m近く、胸高直径50cm余りの大木をチェーンソーで狙った方向に伐倒できた時の感動は言葉に表しがたいものがあります。

木を制圧したとか、勝ち誇る気持ちはみじんもなく、木への感謝、畏敬の念、大仰に表現すれば地球という天体で生命活動を営む一個体として自然と一体化した喜びを感じるのです。(随分と抽象的で大層な言い回しですね)

里山は、自然そのままの森や山(原生林)ではなく、その地で暮らす人々が手を加えて育ててきた山林河川をいうと理解しています。

薪を拾い、山菜やきのこを採取し、屋根をふくカヤを刈り、棚田や段々畑を作って暮らしに役立ててきたのです。そこには新しい生態系が創りだされ、人間と自然が共生する穏やかで豊かな関係があります。また、野生動物(鹿、猪)との棲み分け(境界)を形成し、互いの領分を区切る役割も果たしていたのではないのでしょうか。

人々の生活様式も急激に変化しています。薪を採取することなくなり、昔のままの姿を残すだけというのも里山の在り方としては違うかなとも思います。考え方は様々あるでしょうが、これからの時代にあった里山のありようを模索していく必要を感じています。



## 日本語の流儀

岡田 安弘

近年の新語・流行語は、新型コロナウイルスの関連語が目立つ。日本語まで感染したかのようだ。「人流」が忘れられ、「在宅勤務」が登場したように日本語は生き物、生まれては消えていく。

海外生活が長かった漫画家のヤマザキマリは、帰国して使った流行語が「それはもう死語よ」と笑われたそう。「流行り廃りの速さに驚いた。こんな経験、他国ではなかった」と自著で語っている。

### パソコンの効用

雑文をパソコンで打つようになり、気になる日本語はネット検索で語源を調べる癖がついた。おかげで、世の移り変わりと共に逞しく生き伸びてきた日本語があることも知った。

▽

ロシアのウクライナへの軍事侵攻で、TVのインタビューを受けた在日ロシア人の青年が「やばいことになった」と答えていたのには驚いた。「やばい」は牢屋を意味する「厄場(やば)」が語源。危険な状況を表し、江戸時代から隠語として使われたと知る。一般化して若者が多用するなかで、外国人にまで浸透したようだ。

### 「ら」抜き

当節流行りの「ら抜き」は生き延びるだろうか。教科書や新聞は使わない。TVの場合は、インタビューを受けた人が「食べれる」とか「見れる」と言った時、「食べられる」「見られる」と字幕で訂正している。

▽

TVの「ワイドショー」で、若い役者が「汚名挽回」と言っていた。「汚名」は「返上」、「名誉」は「挽回」と言うのが正しい。

「押しも押されぬ」の「せぬ」を略して「押しも押されぬ」と言ってしまうがちだ。「姑

息な手段」は「卑怯な手口」と誤解しやすい。

「姑息」は、ひと息つくこと。一時しのぎの場で使う。「にやける」は、なよなよしている男を指す。薄笑いではない。いずれもネット検索で学んだ。

▽

日本語が安きに流されていないだろうか。芸能人がよく使う業界用語(主に逆読み)も耳に障る。「タレントが電波の世界に進出し、普段使う誤った話し言葉を乱発。現場は手を焼いている」と、TV局の幹部が嘆くのを聞いたことがある。うかうかしていると、誤った日本語が定着してしまう。

### 横文字の多用

英語の略も気になる。ビジネス用語の「プレゼン」はプレゼンテーションの略。わざわざ横文字を略して使う必要はない。どうして「表現」や「提示」と言わないのか。書家の石川九揚は「漢字を手書きしなくなったことが背景にある」と指摘する。当方も手紙や日記をパソコンで打つ。確かに漢字が書けなくなった。

### 慣用語

駆け出し記者のころ、事件捜査が始まることを「事件にメスが入る」と書いた。知り合いの外科医に「ニュースの慣用語ですな。メスは入るものではない」と指摘された。メスは「あてる」と言うそう。ついでに、手術の終わりの常套語は「メスを置く」と教わる。

### こだわり

週刊朝日の編集長だった故・川村二郎は定年後、意を決して「炎の作文塾」を開き、日本語の正しい使い方を記者志望の若者に叩き込んだ。言葉にこだわる理由をこう振り返っていた。

日本人が誇りを持っていたころ、「こだわり」という言葉は、良い意味には使わなかった。「試験なんかにはこだわるな」と否定的に使ったものだ。誇りを忘れた結果、「こだわり」の誤用が起こっているのは由々しいことだ。



## 仲間入りしました



皆さんのお仲間に入れていただきました

東(あずま)明美

去年シニア自然大学校で学び、春から入会し宇治からJRで通っています。

私の生活は朝型で、4時過ぎには同居の猫(20歳～人間年齢96歳)の「起きや! にゃあ!」の目覚まして起き、散歩から始まります。1日中ラジオを聞いています。

好きなことは、歩くこと。散歩、山登りは大好きで山を歩いているだけでご機嫌で、実習でパトロールにいらしてもらいすぐに気に入ってしまいました。仕事をしている時は、ストレスでフラフラなのに、山に入り木々や山のにおいをかぎながら歩くと、不思議に元気になって「また明日から仕事頑張ろう」という気持ちになりました。山は私を元気にしてくれると実感し生活に欠かせなくなりました。

入会するとびっくり。むかし、海外のアフリカやヨーロッパの山と一緒に登った山仲間の坪井さんがおられたからです。今は二人とも年を取り、膝も悪くなり身体と相談しながら生活していますがまだ仕事もそれぞれ頑張っています。猫好きも一緒。

入会して、いろんなことに興味関心があり、新しいことを見たり体験できるのでわくわくしています。知らないことばかりですがご指導よろしくお願いします。



岸田 玲子

ならやまの里に通い出してまだひと月ですが、勝手にわからずもたもたしていても自然体で受け入れてもらえる安心感と、来る度に緑が深まり次はどんな花が咲いているのかと毎回楽しみになっています。元々趣味の山登りで樹木や花の名前を知りたいと思った事から自然に興

味を持ち、友人の紹介でシニア自然大学校に行き、その実習で近くにこんな素敵な活動の場がある事を知って入会しました。

里山、エコ、景観、パトロール、果樹と各グループ活動を一通り体験させて貰えるのは今回からと聞き、とてもラッキーだと思っています。筍掘りは3回も体験させて貰い、掘った数の割に(無駄に)クワを振り下ろした回数はかなりのものになりました。草引き作業も調子付いて家でもやっていたら、膝が曲げづらくなってきました。皆さんの無理をせず続ける知恵を学んで楽しく活動したいと思います。

毎回ならやま産の野菜を購入して大変おいしくいただいています。ここではぜひ野菜作りや果樹の事などを学びたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



國方 まり子

今年3月17日に友人の紹介でこちらを見学させて頂きました。自然の中で人生の先輩達が、生き生きと楽しそうに活動されてるのを拝見し、是非、仲間に入れて頂ければと入会を決めました。自然は大好きです。でも、今までに草引きしか経験は無く、体力も無く、おまけに能天気で不器用、これでお手伝い出来るか、少々心配ではありますが持ち前の明るさと根気強さでカバーし頑張りたいと思っています。これから何かとお世話、お手数をお掛けすると思いますがよろしくお願いします。

趣味は陶芸(下手の横好き)と歩く事(奈良市歩数計アプリで健康づくり)。2018年より参加中。毎日6,000歩以上歩いています。





オイルパステル 大根 有元 康人



写真 ならやま里山林のエノキ  
國方 まり子



竹細工 鍾馗様 鈴木 末一



陶芸 甘える猫 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。



# 行 事 案 内



## 月例研修会 6 月のご案内

### 矢田寺のアジサイ・矢田丘陵（松尾寺）を 散策しよう

富井 忠雄

昨年 12 月、同じコースのハイキングを予定していましたが、雨になり中止しましたので季節を変えて歩いてみたいと思います。コロナウイルス感染の収束はまだ先がみえませんが、十分対策をとったうえで実施したいと思います。

矢田丘陵、アジサイで有名な矢田寺から松尾寺へのハイキングです。梅雨時の色鮮やかなアジサイや新緑、また国見台展望台からの雄大な大和平野の景色をお楽しみください。

松尾山は、海拔 315.4m でその中腹に松尾寺があります、地元では「まつのおさん」と呼んで親しまれている日本最古の厄除名刹です。

#### 【実施要領】

1. 実施日：6 月 14 日（火）予備 21 日（火）
2. 集 合：近鉄郡山駅東口 9 時 45 分
3. 持ち物：弁当、飲み物、ハイキング靴、  
雨具、敷き物、ストック（有れば）
4. 参加費：500 円（矢田寺入園料）
5. 雨天実施の有無：申し合わせ通り
6. 申込先：富井忠雄

行 程：近鉄郡山駅前バス 10:10—矢田寺—  
松尾山・国見台展望台—松尾寺—松尾寺口バス  
—近鉄郡山駅（大和小泉駅）15 時 30 分頃

行程約 7 km

担 当：有元・尾崎・戸田・富井



矢田寺



国見台展望台から大和平野

## 自然教室チーム 6 月行事案内

### 初夏の奈良公園自然観察会

辻本 信一

令和 4 年 6 月 27 日（月）、初夏の奈良公園、特に普段あまり観察機会のない奈良公園南部の新薬師寺、白毫寺周辺をおなじみの大阪自然史博物館友の会副会長、田代貢先生のご案内で自然観察を楽しみながら探索いたします。

今回も持ち時間は午前中のみとなりますが、急な坂道等も考慮に入れ、時間の節約と私たちの体力温存を目的に下記集合場所の近鉄奈良駅からは市内循環バスを利用し、破石町バス停を自然観察会としての出発点といたします。

雨天時の実施の有無はこれまで通り会の申し合わせ通り（前日午後 7 時前の NHK の天気予報で奈良県北部の降水確率が 60% 以上の場合は中止）と致しますが、田代先生のスケジュールの都合上、雨天時には予備日を設けず中止とさせていただきます。

期待を裏切らない目からうろこの話で楽しめる田代先生ご案内の自然観察会にお友達もお誘いあわせの上、皆さま奮ってご参加ください。

参加要領は下記とおりです。

#### 記

1. 日 時：令和 4 年 6 月 27 日（月）  
午前 9 時（集合場所下記）～ 正午（春日若宮あたりにて現地解散予定）
2. 集 合：近鉄奈良駅、行基菩薩像前  
午前 9 時に一旦集合し、市内循環バスにて破石町バス停まで移動。（破石町バス停が観察会の実質スタート地点）
3. 持ち物：飲み物、暑さ対策（あれば、ルーペ）
4. 観察ルート：新薬師寺、白毫寺周辺を探索
5. 雨天時実施の有無：申し合わせ通り
6. 担 当：自然教室チーム 富江/山本(美)

以上

## 2022年5月度 幹事会報告

日時：4月26日(火) 14:00～16:00

### I. 会計、総務部より

- ・会員動向：154名(7名退会、4名入会)
- ・会計報告：各Gへの仮払い金前渡しを廃止

### II. 活動・行事関係

- ・平城宮跡草刈りは5/5に決定
- ・第一生命財団から緑の環境プラン完成後の取材申し入れあり調整中
- ・春の感謝祭、ジャガイモ不作だが実施

### \*ならやまプロジェクト関係

- ・新入会員各グループ研修は未実施部分について5月も継続
- ・刈り払い機などの安全講習、5/12で調整中
- ・果樹Gへのチップパー機講習(太田)は5/12
- ・5/21イベントはコロナ禍についてのGGプログラムによる判断から人数制限を受けるかもしれないが実施する
- ・懸案の土日活動はコロナ禍収束後の検討課題とする
- ・各Gは日報を数日内に提出してほしい(保険付保するのにも必要)

### III. 企画、助成金事業案件

- ・2021年度の報告書は全て完了した
- ・京大徳地先生より里地里山の研究に協力要請あり。3年間程度。普段の活動のままでよい

### IV. 喫緊、提案事項

- ・第21回通常総会は5/14 奈良市中部公民館にて午後2時から開催
- ・チップパー機は重心が高いため作業時要注意

### V 広報関係

- ・6月号編集内容確認

### VI 報告、連絡事項、その他

- ・月例研修：6/14 矢田寺
- ・自然教室：5/16 生駒滝寺
- 6月恒例の出前教室、放課後教室は中止

以上

次回 5/31(火) 14:00～ 奈良市中部公民館



編集に携わっていると「山」という字が、よく出てきます。さまざまな季語があります。冬は「山眠る」、春は「山笑う」、夏は「山滴る」とあ

ります。ひとつの字からたとえや連想でいろいろな意味が生まれます。本来の意味は、平地よりも高く隆起した地域です。古くは神が住む神聖な場所です。基本的な意味から、どのように使われているでしょう。

①資源のありかである。(例) 山を掘り当てる。(鉱山) 山に入って木材を切る。

②見込みの薄さや不確かなこと(例) 根拠のない当て推量(山勘)、山を張る。

③物をたくさん積み上げると山のような形になる。(例) 塵も積もれば山となる。

④物がたくさんあること(例) 仕事が山のようにある。

⑤超えるのが大変であること(例) 連続ドラマはいよいよ山場をむかえた。

ひとつの物を表す字が、色々な意味に使われるのを、「字の派生」といわれています。

\*\*\*\*\*

## 7月ならやま活動&行事予告

\* ならやま活動(木) 7日 協働活動日

\* 夏だ! 休みだ! 里山で遊ぼう 7/16

予備日 7/23

### 会員動向(敬称略)

<退会者>

5/14 中村 勇二

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: [editor@naranature.com](mailto:editor@naranature.com)

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎・千載・田中(善)・戸田・豊田・増田

表紙写真：佐保台小学校5年生の田植え体験学習(6月9日)の準備作業をしています。